



# JHFレポート

11月号

(社)日本ハンググライディング連盟 発行

1998年 11月号

## 普通会員会費制度スタートへの一歩

9月10日の理事会で、現在(財)日本航空協会が行っているフライヤー登録をJHFフライヤー登録制度として、移管の形で引き継ぐこと、これを航空協会に文書で正式に

申し入れることが決まりました。

これまで、航空協会との交渉の場で、移管の件は話し合われてきましたが、正式な申し入れはしておらず、これで会費制度確

立に向けて実際に一歩踏み出したといえます。

会員制度の具体案は、総合改革委員会で検討中。まとも次第掲載します。

## 委員会の動き

### PG競技委員会 岡 良樹

9月10日に委員会を開き、次のことを決めました。これらは理事会に提出し、承認を得てから実施に移しますので、多少修正することもあります。

ポイントシステムを年間10大会程度のシリーズ制にする案は、期が熟していないので、来年度からの立ち上げは見送る。

現在のポイントシステムは海外での比重が高く、一部のコンペティター以外にはつまらない。そこで、海外でのポイントは日本チーム選抜には計上するが、別に国内大会のみのポイントランキングを「ジャパンリーグ」としてスタートさせる。

SPS規則を見直し、次を改訂・追加。

a.参加可能なグライダーを、AFNORスタンダードまたはDHVクラス2あるいはJHSC登録における必要技能をNP証以下としているものとする。これ以外の機体はオープンクラスとして参加できるが、JHSC登録機(プロトを除く)で無改造、コンペラインを使用していないものに限る。  
b.ポイントシステム前年度30位までの選手は、SPSクラスには参加できない。

以上についての詳細は、理事会承認後あらためてお知らせします。

### HG競技委員会 委員長 大澤 豊

9月2日に茨城県八郷町にて委員会を開催。かねて懸案とされていたHGルールブックの委員会改正案がまとまりました。具体的な内容は、各都道府県連盟とポイントシステム登録者、大会主催者に送付するとともに、HG競技委員会ホームページに掲載します。また、FAXで申し込んでいただければ、郵送もします。競技の活性化を図るため、広くご意見を募りますので、ポイント登録をしていない方にも、ぜひご一読いただきたいと思ひます。

HG競技委員会事務局 FAX:0299-44-1346  
<http://tomato.saino.ne.jp/haku/JHF-HG.html>

### 教習検定委員会 委員長 島野 広幸

9月7日に委員会を行いました。いつもどおり10時から17時までのロングランの会議となりました。

JHF教員検定の飛行実技の内容を具体的に表現するため、昨年までの検定会の様子を編集してビデオを作りました。これはすでに受験者に配布しています。検定は10月6日にスタートです。

12月の学科研修会の講義に採用する「実践に役立つ救急法」の取り入れについても検討。これら救急法は、将来テキストにも盛り込んでいくことを見据えており、6~10ページぐらいに編集する予定です。

### 制度委員会 委員長 小林 秀彰

現在、制度委員会は「会員による、会員のための制度作り」を目的とし、下記のような課題に取り組んでいます。

2000年に普通会員会費制度が確立した場合の都道府県連盟規約

JAAフライヤー登録制度が、JHFフライヤー登録制度に段階的に移行される際に発生する諸問題について研究。

トーイング技能証の必要性(長期課題)トーイングによるHG世界選手権が開催されるなど、トーイングが脚光を浴びているが、JHFにはトーイングの規定等がない。外国を参考に日本に適した制度化を。

USHGA セーフティーアワードの研究アメリカには無事故フライヤーを表彰する制度があり、日本への導入が可能かどうかを研究中です。

クロスカントリー技能証の見直しハングとパラの特性を考慮し、限定飛行距離の見直しが可能かどうか、研究中。

補助動力練習生技能証の見直しFLMとの関係も考慮し、JHFとしての本来の補助動力を研究しています。

### 補助動力委員会 委員長 山崎 勇光

教本制作とハング問題集の原稿準備に先

行して、フライトモラル小冊子の発行を検討しています。掲載内容は以下のとおり。

MPGの未来

フライトモラル

全国各地のフライトルール

各種 MPG 規定

JHF 正会員 47 都道府県連盟所在地

所有者明細記入欄

その他 - 1999年・2000年カレンダー、新MPG技能証規定、練習生移行システムなどを予定しています。

MPG日本選手権は、群馬県尾島町の後援をいただき、10月24日・25日に行われます。会場となる広大な利根川の河川敷は、周囲約10kmにおよぶ平坦地で、堤防がかなり遠くタービュランスの影響が少ないため、全方向の風でテイクオフ可能です。眼下に尾島町やヤマトイモの緑の大地を見ながら皆さんと楽しく競技できることを期待しています。

## 空のかお

その14



小峯 辰美(こみねたつみ)さん

パラグライディングを始めてから、もう10年以上になる。「いつもビクビクしていたからね。」という慎重なフライトで、大きな怪我もなく楽しくパラを続けてきた。一昨年、ヨーロッパでのフライトを実現し、現在は月2回程のペースでエリアへ通う小峯さん。大好きな空をこれからもずっと楽しんでください。

## 第6回女子ハンググライディング世界選手権報告

チームリーダー 大門 浩二

今回の世界選手権開催地、ハンガリーのハジュスロボスロは、山も丘もないフラットランドなので、離陸はトライクによるエアロトイーグで行われた。トイーグ経験の浅い日本人、まして小柄な女性パイロットには、トライクトイーグはリスクを伴うことが予想され、日本の女性パイロットのほとんどが出場を断念。谷古宇選手だけが1年前からエアロトイーグの練習をし、この大会に挑んだ。正直いって僕は、谷古宇選手のトイーグ技術にかなり不安を抱いていたのだが、練習フライトを見て安心できた。あとはリリース後のフライトで勝負だ。

8月15日 TASK1

風下方向へ1パイロンを含む68kmのゴールタスク。10番目くらいにテイクオフでき、いい位置をキープ。前回のチャンピオンのカリーたちに上げ負けることなく、谷古宇スタート。途中で先頭グループから遅れ単独になったが、あわてずステイハイ。200mを切る高度になっても粘り続け、60km地点にランディング。イギリスのニキ・ハミルトンをトップに5人がゴール。谷古宇7位の順調な出だしとなった。

8月16日 TASK2

高気圧の移動が早く、昨日とは一転してステイブルな状態なので、近場のパイロンを周回する53kmタスクに。谷古宇は今日も好タイミングでスタート、ロシアのナタリーらと集団を組み第1パイロンをクリア。しかしこの後、向かい風のコースとなり、距離をのばせず降りてしまう。結局ゴールはゼロ。41.3kmでオーストラリアのニバがトップ。2本合計でニキが首位。谷古宇は10位。まだまだ上位を狙えるポジション。

8月17日 TASK3

高気圧帯が続き、日毎にコンディションが渋くなっていく様子。昨日と反対回りの53kmタスク。渋すぎて上がりきれない者も



笑顔のトップ3。中央がコリーナ。

出るなか、谷古宇はいい位置でスタートしたが、疲れが焦りが出たか、13kmで降りてしまった。29人中27位と手痛いミス。渋い条件の下、5人がゴール。ドイツのコリーナがファーストスタート、ファーストゴール、ファーストタイムを叩き出し1000点獲得。総合でも1位に躍り出た。

TASK4 ~ TASK6

日増しにコンディションが悪くなり、点差がひらかないままタスクが消化された。谷古宇は体力的に厳しくなったか判断力と集中力に欠け、3日間ボムアウトで終わる。前半の調子がよかっただけに残念である。

\*

総合成績は29人中21位と悔しい結果となったが、谷古宇選手にとって今大会は素晴らしく貴重な経験だったはずだ。ほかの日本の女性パイロットにとっても、今後の励みとなるのではないだろうか。

第6回女子世界選手権は、3日目の順位から代わらず、コリーナ選手がその栄冠を勝ち取った。彼女は体重50kg以下で、日本女性と変わらぬ体格である。性格も温和な感じで、彼女を見ていると日本の女性パイロットにハンディがあるとは思えない。今回のトイーグで谷古宇選手が証明したように、体格や体力ではなく、知識と経験から生まれる判断力、そして精神力が、競技に勝つための最も重要なファクターだろう。

\*

1位 Corinna Schwiegershausen

ドイツ 2621点

2位 Neva Bull オーストラリア 2576点  
3位 Natalia Khamlova ロシア 2549点  
4位 Niki Hamilton イギリス 2516点  
5位 Monique Werner ドイツ 2327点  
6位 Kari Castle アメリカ 2229点  
21位 谷古宇 瑞子 日本 1299点

谷古宇 瑞子

おかげさまで、無事に飛んできました。心配していたトイーグも、事故一つ無く、女性でもトイーグができるというよい証明になったと思います。もちろん、腕のいいトライクパイロット達のお陰もあります。航空産業が比較的活況に密着しているハンガリーでは、多種類のスカイスポーツが仲良く共存しているようでした。

大会は9日間のうち6日が成立。前半3本は天気恵まれ、毎日60km位のタスクで、見渡す限りの麦畑やひまわり畑の上をひたすら飛べました。ハンガリーは晴れていても視界がクリアでなく、サーマルもかなり渋いのが特徴です。全くの平地からテイクオフして、最高でも1700m位。いつも人より高いドイツのコリーナ選手が、3日目に1000点を出し、まず優勝に近づきます。前半好調だった選手はイギリスのニキ、オーストラリアのニバ。後半は天気が崩れて渋いコンディションが続き、どの選手も苦戦。そんな中をイギリスのキャシー選手が粘りを見せ、3日連続トップを飾ったものの、RVFが低くて逆転には及ばず、コリーナに優勝決定。前回のチャンピオンだったアメリカのカリーは不調だったようです。

今回の参加国は7ヶ国、参加人数は29名。フルエントリーはアメリカだけ。優勝したドイツチームは、全員キングポストレスのグライダーで強さを見せつけました。私の成績は21位とあまりよくありませんが、少人数で参加したオーストラリア、デンマークチームとインターナショナルチームを組んで助け合ったり、ベテランの女性パイ

### 検定会開催予定(1998年9月25日現在)

P: PGパイロット学科 NP: ノービスパイロット学科 HG: HGパイロット学科 XC: クロスカントリー学科

種類	検 定 日	時 間	開 催 場 所	主 催 ・ 連 絡 先
P・NP・XC・HG・PW	11/ 8 (日)	9 : 00 ~ 12 : 00	青森県青森市雲谷	青森県連盟 TEL.0172-37-6768
P・NP・XC・HG・PW	11/10 (火)	17 : 00 ~ 20 : 30	神奈川県横浜市戸塚区川上町	ヨコハマスカイスポーツ TEL.0460-3-6958
P	11/14 (土)	17 : 00 ~ 19 : 00	岡山県阿哲郡大佐町小阪部	SET大佐山SS TEL.0867-98-3400
NP	11/14 (土)	17 : 00 ~ 18 : 30	静岡県熱海市下多賀	ヘリグライド(株) TEL.045-680-1866
XC	11/14 (土)	15 : 00 ~ 17 : 30	茨城県新治郡新治村小野	新治こまちPGS TEL.0298-62-5355
P	11/14 (土)	18 : 00 ~ 22 : 00	群馬県利根郡月夜野町後閑	(有)グランボレ TEL.0278-62-1274
P	11/22 (日)	16 : 00 ~ 18 : 00	静岡県富士宮市根原字宝山	DKスカイジム朝霧 TEL.0544-52-1031
NP・XC	11/28 (土)	17 : 00 ~ 18 : 30	静岡県熱海市下多賀	ヘリグライド(株) TEL.045-680-1866
P・NP・XC・PW	11/28 (土)	13 : 00 ~ 17 : 00	東京都中野区中野	東京都連盟 TEL.03-3724-0010
P・NP	11/28 (土)	18 : 00 ~ 22 : 00	広島県広島市安佐北区白木町井原	広島県連盟 TEL.082-231-2023
P・NP・XC	11/29 (日)	9 : 00 ~ 12 : 00	熊本県阿蘇郡阿蘇町内牧	阿蘇ネイチャーランド TEL.0967-32-4196
XC	12/ 6 (日)	18 : 00 ~ 22 : 00	広島県広島市安佐北区白木町井原	広島県連盟 TEL.082-231-2023
NP	12/12 (土)	17 : 00 ~ 18 : 30	静岡県熱海市下多賀	ヘリグライド(株) TEL.045-680-1866
P・NP・XC・HG・PW	12/19 (土)	19 : 00 ~ 21 : 00	神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町	神奈川県連盟 TEL.0460-3-5391
P・NP・XC	12/20 (日)	9 : 00 ~ 12 : 00	熊本県阿蘇郡阿蘇町内牧	阿蘇ネイチャーランド TEL.0967-32-4196
P・NP・XC・HG・PW	12/22 (火)	17 : 00 ~ 20 : 30	神奈川県横浜市戸塚区川上町	ヨコハマスカイスポーツ TEL.0460-3-6958
P	12/26 (土)	17 : 00 ~ 18 : 30	静岡県熱海市下多賀	ヘリグライド(株) TEL.045-680-1866
P・NP・XC	1/31 (日)	9 : 00 ~ 12 : 00	熊本県阿蘇郡阿蘇町内牧	阿蘇ネイチャーランド TEL.0967-32-4196

ロットの飛びを見ることができ、よい刺激を受けました。

人種も国籍も年齢も超えて同じ大会で飛ぶことで、自分の今のレベルが分かり、今後の目標ができます。外国の女性パイロットも、全員が強たくてまいわけではありません。彼女たちは経験を積んでいるから勝てるのだと思います。今回は、うまい選手についていけずに焦ってしまい、一人で走って失敗しました。次の課題は、彼女たちと集団で飛ぶことです。

## ヨーロッパ・ハング三昧転戦記

大門 浩二

数年前から世界のトップレベルのパイロットはヨーロッパに集中しています。その理由には、変化にとんだ地形(山あり谷あり平地あり)とバレーウインドなど局地的に特殊な気象条件のなかで競技を行うテクニカルな部分が多い事、そして一番の理由は、常に世界のトップレベルのパイロット達と競い合い多くの経験を積むことが、全体のレベルアップにつながっている事があげられます。そんなことから世界を目指す僕としても、プレワールドを含めてヨーロッパでの大会を転戦してきたのでその概要をお伝えします。

ブリティッシュリーグin MonteCucco イギリスリーグの大会は、そのほとんどがイギリス国内で行われることはなく、スペインやフランス、イタリアなどヨーロッパ各地のコンディションの良いエリアで行われている。今回僕が出場したのも、世界選手権が開催されるイタリアのモンテクッコで行われた。イギリスの競技パイロット達は、日本と同様に高齢化が進んでいるようで、若手のパイロットが少なかったが、ゴードン・リグ、アラン・バーン、スティーブ・クックなどの世界選常連組が上位をキープしていた。

競技内容としては5本のタスクが成立し、オープン参加のブラジル人、アンドレ・ウルフが優勝。タスク内容は50～80km程度で比較的短めだったが丁度良い練習となった。僕は初日にグライダートラブルでボムアウトになってしまい最下位からの出だしとなり、最終的に23位でこの大会を終えた。

特に目立ったのが、練習のために参加していたブラジルチームの3人で、常にチームフライトをしていて毎日のトップ8に2人が必ず入っていた。

プレワールドチャンピオンシップ in MonteCucco  
ここイタリアのモンテクッコは風が強い



モンテクッコ。中央右寄りグライダーがテイクオフ地点。

選手がたった一人だったにも関わらず、エントリー費とチームリーダーの足代を捻出してくださったJHFの皆様、わがままな私を黙ってサポートしてくださったチームリーダーの大門さん、日本でトレーニングを教えてくださいました田中栄一さん、この大会に私を参加させてくださった全ての皆様、本当にありがとうございました。



唯一の日本代表として参加した谷古宇選手。

ことが多く、競技日程9日間のうち雨は一度も降らなかったのだが、風が強すぎてキャンセルになることが多く、4本のタスク成立となった。特にテイクオフ付近は風が集まりやすい地形なのだが、競技は40km/hr位では平気で行われていた。タスク距離は80～150km位で、タスクの前半は山並の尾根沿いをがんがん飛ばすスピードレース的な要素が強く、途中から谷渡りしてまた別の山並でのレース展開となったり、後半は低い丘の続く平地を飛行するなど比較的テクニカルなコースが多いようだ。スピードレースといっても、高度の違いによってサーマルの強さが大きく違うので、突っ込み過ぎでは、あげ直すまでにタイムロスしてしまうので、ある程度高い高度をキープしながらのスピードレース展開になることが多いようである。

結果は、これ迄マンフレッド・ルーマーの影武者と言われていたオーストリアのゲロルフが2位のマンフレッドを僅差で押えて優勝した。マンフレッドはデイリーで2本のトップをとったものの僅かに及ばず2位に甘んじた。注目のギド・ゲイルマンとオレックは終始トップグループに食い込んでいたが、3本目のタスクでお互いを意識し過ぎたのか共にゴールすることができず、4位と6位となった。特筆すべきは、彼らのテクニックと判断力はもちろんのこと、更には使っているグライダー性能の違いである。何度かいっしょに飛んだがテクニック以上に明らかに巡航スピードと滑空性能が違っているのである。もちろんチューニングしているからなのだが、悔しいほどに違っていた。

そして僕はまたしても悔しい結果となり55位であった。

アルペンオープン in オーストリア

アルプス特有のきりたった岩肌の高い山々と深い谷が連続するチロル地方のインスブルックで行われたこの大会は、オーストリアナショナルクラスの大会だが、プレワールドからそのまま流れてくるパイロットが多く、インターナショナルなレベルの高い大会となった。ここのバレーはそれほど深くなく、比較的幅があるので余りプレッシャーは感じられなかった。唯、テイクオフとパイロンが標高の高い所にあり、バレーの中に逆転層ができたときはとても判断が難しくなる。



アルペンオープンルーマーが完全優勝。

競技結果は、マンフレッド・ルーマーの完全優勝。5本成立の全てをデイリートップで優勝した。また、トップ10の中で8人がオーストリアパイロットで、地の利があるとは言え、さすが世界No.1チームの実力を見せ付けられた。僕は、なんとかここのトリッキーなコンディションのなかで、鋭い岩肌の山々にビビりながらも23位となった。

ヨーロッパ選手権

スロバキアで13日間にわたって行われたヨーロッパ選手権は、世界選手権と同等レベルの大会だ。マンフレッド、ギド、オレック、ゲロルフと、いつものメンバーが上位。それにイタリアのクリスチャン・チックが食い込み、ジェラルド・テブノヤトマス・スチャネックがからむ。結果は、3位クリスチャン、2位ギド、そして優勝マンフレッド・ルーマー。

マンフレッドは当然いつもトップ集団にいたのだが、常に余裕があり、いつでもどこからでも集団を抜き去りトップに立てるといった感じで、圧倒的な強さを見せていた。僕は、前半の5日間ずっと20位前後をキープしていたが、後半2本でミスが続き、9本成立で31位という順位だった。

スロバキアのオーガナイズিংはとても素晴らしく、日本のいたれり尽くせりの大会よりしっかりしていた。物価が安くビールは飲み放題状態だったのも、とても嬉しかった。

日本からのヨーロッパ選手権参加は、比較的簡単に受け入れてもらえる。世界クラスのパイロット達と競い合いトレーニングするのに、ヨーロッパ選手権は最適の場と言えるだろう。今回はオーストリアのインスブルックで開かれるので、もう一度挑戦し、今度は上位に名を連ねるつもりである。

私たちの

クラブ

です!

# Team Wind Love

# チームウインドラブ



フライト以外のお楽しみも盛りだくさん。

総勢 136 名からなる大家族チームのウインドラブは、ご存知、鹿児島県の吉松町にある魚野(東系)・上床牧場(西系)・えびの高原の矢岳高原(南系)と大変贅沢なホームエリアで活動しているパラグライダークラブです。

吉松にあるスクールを卒業してパラにのめり込んであまり込んで抜け出られなくなってしまった人達が現在のクラブ員の殆どです。本拠地は鹿児島ですが、メンバーの住所を見ると宮崎・熊本・福岡、遠くで



恵まれた環境のなかで楽しんでいます。

は本州の愛知や京都・東京の方もクラブを離れられず会費を払って籍を置き、鹿児島へ帰ってきた? 折にはいい思い出をしています。

活動内容はというと、先ずはもちろんパラ。3 方向のビッグエリア(手前味噌ですみません)へショップから車で約30分以内という恵まれた環境でのフライトは、1年を通して飛ぶ事が出来、且つ条件によってはこれらの3箇所をまるで四国の八十八箇所巡りの様にクロスカントリーを敢行する事も可能です。クラブのメンバーは本当にお人好しが多く、即座にサポート態勢を作り上げてクロスカントリーをバックアップしてくれたり、ツリーランの回収のために大急ぎでフライトを中止して現場に向かうといった事を、決められてもいないのに自主的に行う面々が集まっています。誰かの失敗(事故等)を個人の問題とせず、主だったメンバーを集めその失敗について原因の究明を行い、その対策を周知徹底して同じ失敗を繰り返さない様にしています。

フライト以外に関する事も、年間を通してのキャンプや、メンバーのご家族に対し日頃の理解・協力への感謝の意を込めた無料体験会、年末年始の大宴会、2年前から始まった喜界島(奄美大島の隣にある)フライトツアーなど催し物が盛りだくさんです。かくいう私もクラブで「シェフ」と呼ばれる(本当はただの会社員です 調理全般を任されることが多いのですが、食欲旺盛なクラブのメンバーの食べっぷりが見られるので気持ちよく引き受けさせてもらっています。他に「華板」のTさんや「流れ板」のFさん、ヤンジーことHさんを擁する調理班は、グルメの人にもちょっとは満足してもらえるものを提供できています(と思込んでいます)。ともあれ、当クラブは大世帯ではありますが、これからも老若男女が一つの趣味を通して出会えた事を大切にしながら「楽しく安全に」をモットーに各々技術・マナーの向上に励んでいきます。

中村 淳一 記

## 大会報告

スカイグランプリ '98 獅子吼  
パラグライダー選手権大会  
1998年9月4日～6日  
石川県鶴来町獅子吼高原

- |    |       |      |       |
|----|-------|------|-------|
| 1位 | 佐藤 哲也 | 埼玉県  | 1783点 |
| 2位 | 宮田 歩  | 茨城県  | 1774点 |
| 3位 | 武尾 拓  | 山梨県  | 1731点 |
| 4位 | 長島 信一 | 埼玉県  | 1697点 |
| 5位 | 川地 正孝 | 神奈川県 | 1340点 |
| 6位 | 若山 朋晴 | 静岡県  | 1258点 |

(女子)

- |    |       |     |      |
|----|-------|-----|------|
| 1位 | 穴井久美子 | 山梨県 | 959点 |
| 2位 | 高林小百合 | 富山県 | 890点 |
| 3位 | 山本富士美 | 東京都 | 829点 |

梅雨が開けなかった北陸だったが、大会直前から天気安定し、3日間ともフライトできてとてもラッキーだった。1日目のスピード競技でトップをとった川地選手が2日目も3人同点トップかと思われたが、パイロンポイント撮影ミスにて、総合5位に落ちた。そのため、上位4選手が100点差以内にひしめく混戦となった。最終日は、強風のため競技中にキャンセルとなり、佐藤選手の大会初優勝が決まった。また、女子は総合で12位から21位までに6人が入るレベルの高い戦いとなったが、僅差で穴井選手が逃げ切った。しかし、閉会式後に2日目のミニマム距離設定に誤りがわかり、再計算の結果不成立となった。但し、閉会式

後のため、スカイグランプリ大会としての成績は変更せず、ポイントシステム対象の成績を1本目のみとした。

奥羽ラリー選手権 '98(HG)  
1998年9月11日～15日

秋田県十の瀬山・青森県岩木山

- |    |       |       |
|----|-------|-------|
| 1位 | 阿部 貢造 | 1574点 |
| 2位 | 大沼 浩  | 1558点 |
| 3位 | 峰岸 正弘 | 1142点 |
| 4位 | 山本 貢  | 1084点 |
| 5位 | 大澤 豊  | 1012点 |
| 6位 | 小野寺啓樹 | 954点  |

初日(十の瀬山): 渋いコンディションの中飛べたもののミニマムクリアが1名だけで不成立。

2日目(十の瀬山): 雲底が低い(650m)ながらも上々にコンディションが上がり7名のゴール達成で成立。

3日目(岩木山) 弱い前線通過か前半風が強く待機が続くが、昼頃から安定し競技開始。コンディションの上がりが短かすぎてロングディスタンスの機会を逃す。

4日目(岩木山) 中規模ながらも安定したサーマルが全般的に出てコンディションは上々、岩木山19年目にして初ゴール達成者が2名出て、前日までの成績に大逆転が生じた。

## PG 競技委員会からお願い

1999年度のパラグライダーの大会カレンダーを作成しますので、大会開催を企画されている主催者は11月末日までにJHF事務局宛公認申請書(競技規則、地図等は大会開催3ヶ月前迄に送っていただければOKです)をお送り下さい(FAX可)。

ただし来年2月末までに大会を開催される場合は通常通り3ヶ月ルールが適用されます。万が一開催期日がバッティングする大会に関しては競技委員会からその旨ご連絡をし、調整するように致します。これは出来るだけ選手がスケジュールを組みやすくして、より参加しやすくすることと、大会期日のバッティングによる参加者の分散を防ぐことが主たる目的です。なお11月末までに提出出来ない場合でも従来通り3ヶ月(ポイント・SPS以外は2ヶ月)ルールによる公認申請も受け付けますので、ご安心下さい。

## 広報出版局からお願い

大会報告をしてくださる皆さんにお願いします。競技風景や入賞者の写真も、できるだけお送りください。また、競技の様子だけでなく、オーガナイザーとしての感想も知りたいというご意見が、広報出版局に寄せられていますので、よろしくお願いします。

# 理 事 会 ダ イ ジ エ ス ト

## 9月理事会

9月10日(木)13時30分～17時 東京都港区立生涯学習センター研修室 出席：渡邊敏久、川添喜郎、鈴木康之、朝日和博、岩間雅彦、小林朋子、星野納、松田保子各理事、宮川雅博、坂本三津也各監事 欠席：関谷暢人理事

### JAA との交渉について報告

川添副会長より、8月5日と25日に行われた、財団法人日本航空協会(JAA)の角田昌男航空業務室長・津田秀司第2部長との会談について報告あり。新任の角田室長と、これまでのJAAとJHFの関係を確認し、フライヤー登録制度の移管等について交渉を行った。その結果、JHF総合改革委員会でまとめた登録移管の案(会費制度案)を正式に理事会で承認し、JAAに正式文書で移管について申し入れることに。

### MPG日本選手権規定について報告

補助動力委員会担当の星野理事より報告あり。7月理事会で「都道府県連盟に所属していない者について、第3回大会まではJHF推薦によって参加出場できる」という特例付きで、補助動力付PG日本選手権規定を承認した。その際、特例のJHF推薦の基準を明確にするよう、補助動力委員会に要望。今回、同委員会から「MPG経験が豊富、JHFのPGパイロット証を持つ、MPGの普及に熱意をもって取り組んでいる者」という基準が提出された。

### 申請料収入減の報告

管理部、朝日理事より報告。今年4月～8月の技能証申請料等の収入は、前年同時期に比べ、13%のマイナス。PGと補助動力関係はすべて減っているが、HGは前年より収入(技能証申請)がふえている。

### JHFホームページについて報告

インターネット専門委員会、岩間理事より報告。5月末の委員会で決めた、ホームページ掲載のフライヤー向け情報は、ほとんど出揃った。(一般向けは準備中。)

### JHF日当の削減について審議

JHFの役員、各委員会の委員が会議に出席するなどした場合、JHFから日当が支給

される。これまでは1日5000円以内だったが、収入減が続いており、経費を削減するため日当を暫定的に減額することに。財務担当の朝日理事から出された案を修正し、1日4,000円以内に変更することを決定。理事会・総合改革委員会は本日から、委員会は10月1日から減額。来年3月まで。

### 総務局長辞退願いについて審議

鈴木総務局長より、業務を遅らせないために「総務局長辞退願い」が提出されたが、これを否決。これまでどおり、鈴木理事が総務局長をつとめることに。

### フライヤー登録制度移管について審議

普通会員会費制度の確立に向けて、現在JAAが行っているフライヤー登録を「JHFフライヤー登録制度」として、移管の形で引き継ぐこと。これをJAAに文書で正式に申し入れることを、全員一致で決定。(これまでJAAとの交渉の場で、移管の件は話し合われてきたが、正式な申し入れはしていなかった。)

### タンデム技能証規定見直しについて協議

タンデム技能証規定は、6月総会で承認され制定されて、実施を待つ段階にあるが、その内容に再検討すべき部分があるとして渡邊会長より「二人で飛行する場合の規定についての提言」が提出された。協議の結果、次回理事会(10月)に渡邊会長が規定案を提出、これを審議することになった。また、教習検定委員会から「制度の重要性・必要性を考え、慎重に運用したいので、もう少し具体的運用方法の審議を行いたい。」という文書が提出された。

### タンデム技能証制度に伴う第三者賠償責任保険の制度について協議

教習検定委員会から「機長責任において同乗者とともに飛行した結果、同乗者に被害を与えた場合の賠償責任保険制度の確立が必要ではないか」と、提案あり。現在のJAAフライヤー登録に付いている第三者賠償責任保険では、上記の場合に保険金請求ができない。オプションとして追加できるかどうか、方法を総合改革委員会で検討することに。

## 教習ビデオ制作について

企画部、川添副会長から、教習用ビデオの制作費用について説明あり。制作プロダクションに問い合わせの結果、制作に400～600万円かかること、JHFで2000～3000巻買い取る必要があることがわかった。制作するには、完成(頒布開始)時期を十分検討する必要があることを確認するにとどまった。(予算の問題があるので、収入減が続く現状から、慎重に動かねばならない。)

### CIVLへの議案提出について

来年3月に行われるCIVL会議に提出する議題の案を募る。CIVL委員でもある小林理事がまとめるので、理事会に提案してほしいと、呼びかけ。

### 来年度普及活動推進案について

普及事業推進室、星野理事から、来年度の普及活動推進案が提出された。これまで行ってきた「全国体験講習会」は、今年度を最後に日本財団からの補助金がなくなるので、来年度も継続するか否かの判断が必要。過去3年間の実績もあり、また、47都道府県連盟に対して実施したアンケート調査の結果を参考にすると、何らかの形で継続を図らねばならない。次回審議。

\*

JHF理事会は、原則として月に一度開かれていましたが、経費削減のため(会議費はかなりの支出になります)2ヶ月に一度の開催になりました。そのため8月は開かれず、9月は2ヶ月ぶりの理事会に。しかし、文書による理事会という方法はあるものの、隔月では都合の悪い時もあり、今後は、必要に応じて毎月開催することに。

JHFレポートは、6月・7月号まで、理事会議事録に一部補足したものを掲載してきました。しかし、正直いってわかりにくいところもあり、8月号からスタイルを変え「理事会ダイジェスト」として、理事会で話し合われたこと、決まったことのポイントをお知らせしています。理事会の議事録は各正会員(都道府県連盟)に送られるので、必要な方はそちらをご覧ください。

JHF 広報出版局 松田保子

## 総合改革委員会から

9月10日(木)に東京都港区立生涯学習センター研修室で第9回(社)JHF総合改革委員会が開かれました。

昨年の委員会発足から最大の課題として取り組んできた、普通会員の会費制度。今回は、年会費3500円とした場合の内訳について再検討。また、普通会員の定義を確認。わかりやすくいえば、普通会員とは、「飛行責任の宣言(フライヤー登録)を行い、会費を払った人」ということになります。- JHF定款第5条(2)第8条。

この日の理事会で、JAAフライヤー登録

制度のJHFへの移管を、JAAに正式に申し入れることが決まりました。総合改革委員会としては、早急に会費内訳等の最終案を出す必要があります。

JHFレポート8月号で、普通会員の会費制度が予定より1年早く、1999年4月にスタートする可能性があることをお知らせしましたが、JAA側の都合もあり、4月からは準備が間に合いそうにありません。また、会費制度(案)の詳細を今号で紹介する予定でしたが、掲載はもう少し先になります。

### あなたの意見を求めています!

JHFは、あなたの率直な意見を求めています。理事会や総合改革委員会、JHレポートに提案したいこと、とりあげてほしいことなど、ぜひお知らせください。もちろんお叱りの言葉もどうぞ。JHFはフライヤーひとりひとりのための連盟です。遠慮は要りません。ご意見等はJHF事務局にFAXでお送りください。お名前・連絡先もお忘れなく(ご意見に対する返事はほとんどの場合できません。予めご了承ください。JHFの動きが返事です。)

前号からスタートした県連ニュース、各都道府県連盟の広報係と代理の皆さんが原稿を送ってくれます。短いニュースでも、どんなことをしているのかわかると、その連盟や地域に何となく親しみを覚えるものですね。他連盟の動きが自分たちの活動のヒントになることもあるでしょう。ぜひスミからスミまで目を通してください。

県連ニュース掲載を始めるにあたって、広報係を決めてくださいと各県連にお願いしましたが、まだ決まっていないところがあるようです。できるだけ早く47都道府県連盟すべてのニュースを載せたいものです。

参考までに、9月末までに広報係のお名前・連絡先などを知らせてくださったのは、次の14連盟です。北海道、青森県、宮城県、栃木県、埼玉県、長野県、富山県、岐阜県、三重県、奈良県、愛媛県、山口県、佐賀県、鹿児島県。

広報係は決まっているのに連絡し忘れたということもあると思います。広報出版局からお送りした用紙を使わなくてもかまいません。連盟名、広報係の氏名・住所・連絡先電話番号 あればFAXもを明記し、JHF事務局内広報出版局にFAXを。

## 北海道ハンググライディング連盟

9月12日・13日、北海道連盟が中心となって、カムイスキーリンクスのPG大会を開催。50名が参加し、13.65 kmのスピードランで12名のゴールが出て、おもしろい大会になりました。ここは、大会でしか利用できず、エリアとしてはまだまだ未知数なのですが、今後も大会を継続していく予定です。 吉野正規

## 青森県ハンググライディング連盟

9月12日～15日の4日間、秋田県十の瀬山と青森県岩木山において「HG 奥羽ラリー選手権 '98」が開催された。当大会は、伝統ある二大会をドッキングさせ、一度の遠征で二つのエリアで競技できるという、今までになかった企画で、大好評のうちに終わりました。 古川正司

## 秋田県ハング・パラグライディング連盟

9月は、秋田県内で大会がたくさん開か

れました。5日・6日は稲川町の国見岳で秋田県PG大会が、12日・13日には田代町の十の瀬山でHG大会が開催されました。このHG大会は青森県の岩木山と合同で開かれ、奥羽ラリー選手権というナショナルポイント大会も兼ねたものでした。また、19日・20日は太田町の大台山でスカイフェスタPG大会が開催されました。

いずれの大会も、町の協力をいただき、県内外のフライヤーが楽しく集い、そして夜のパーティも大いに盛り上がりました。 朝日和博

## 宮城県ハンググライディング連盟

去る9月6日、当連盟主管で第2回ハング・パラ無料体験会を行いました。昨年は会場が広瀬川河川敷だったため、また朝のうち雨だったせいもあり、200名近い応募があったのに、実際に参加したのはスタッフとほぼ同数の60名余りでした。そこで今年は、老若男女だれでも楽しめる様々なテーマの施設を持ち、自然あふれる広大な国営みちのく杜の河畔公園に会場を移しましたが、開園と同時に家族連れの参加者が続々とつめかけ、若干の欠席はあったものの、飛び入りを含め121名参加(予定は120名)の大盛會でした。 川越敏明



多数の参加者に空の楽しさを感じてもらえた。

## 栃木県ハング・パラグライディング連盟

7月11日・12日に、古賀志山のDK宇都宮と宇都宮スカイパークで、パラの体験コースを実施しました。天気にも恵まれ、25人の参加者全員に楽しんでもらえたと思います。 谷古宇瑞子

## 神奈川県ハング・パラグライディング連盟

12月12日・13日の週末に、HGとPGの助教員検定試験を行います。定員15名。静岡県函南町のイクスにて。受験希望者は神奈川県連事務局 TEL.0460-3-5391 に連絡してください。 金高仁史

長野県ハング・パラグライディング連盟  
8月29日・30日に、白馬乗鞍エリアにおいて「第3回白馬乗鞍レディースカップ」PG大会が開催されました。当日は台風の接近する中、白馬の天気は大方の予想に反し曇り。何とかフライトすることができました。翌日も曇天ながら昼からはまずまずのコンディションになり、何と2日とも飛んで無事終了となりました。

エキスパートクラス1位、田中雅子。2位、村上裕子。3位、早坂郁子。4位、増子友美。5位、玉井祥恵。6位、鈴木めぐみ。ピギーナークラス1位、本多加代子。2位、若林知美。3位、渡辺広子。4位、橋本理央。5位、野上洋子。6位、加藤恵美。以上が上位者でした。 井上廷仁

## 岡山県ハンググライディング連盟

7月4日に助教員検定会を開催、2名が合格しました。また、8月25日に定時総会を開きました。

平成11年3月末日に、現役員の任期が満了となります。活発な活動ができるよう、やる気のある方を新役員に求めています。 沼田敦子

## 山口県ハング・パラグライディング連盟

去る9月13日(日)徳山市陸上競技場において、第2回パラ・ハング無料体験講習会が行われました。快晴、1～2mの風の中、77名の参加者は、51名の県連会員の指導で、楽しく充実した一日を送りました。 江本俊信

## 佐賀県ハング・パラグライディング連盟

佐賀フライヤーズクラブ会員約20名が、鏡山エリアの草刈り作業を実施。6月以来、久々の顔合わせで、無事作業を終了したものの、60cmも伸び放題だったので、もう一度草刈りすることにした。 松下雅明

## 鹿児島県ハング・パラグライディング連盟

10月30日～11月1日(30日は公式練習日)にパラグライダー吉松カップ'98が開かれます。また、11月21日・22日には入来パラグライダーフェスティバルIN'98(23日に産業祭が町営グラウンドで行われる)が開催されます。詳しくは、鹿児島県連事務局の黒木秀芳 TEL.099-248-2061 まで。 黒木悦子

## 大会開催予定(1998年9月25日現在)

PS: ポイントシステム対象(ポイントシステム対象、公認については申請を含む。) 参加資格 XC: クロスコントリート P: パイロット証 NP: ノービスパイロット証 B: B級練習生参加可 会員: 都道府県連盟に属する者

区分	大会名	日程	開催地	参加資格	参加費	締切
公認 PG	NAGOスカイスポーツフェスティバル	11/21～22	沖縄県名護市多野岳	B以上	3,000円	11/6
	〒901-1403 沖縄県島尻郡佐敷町佐敷1379-16 TEL098-948-3306					
公認 SPS	平和カップ '98 広島市ハングライダー・パラグライダー選手権大会	11/21～23	広島県神の倉山他	P	10,000円	11/6
	〒733-0002 広島県広島市西区楠木町3-4-19 TEL082-238-4401					

\*前号の大会開催予定で「あぶくま洞オープンカップHG大会」はPSとありますが、公認のみの間違いです。おわびし訂正します。



10月号で「他者を巻き添えにしないために」として、福島県で起きた事故について簡単にお知らせしたが、パラフライヤーが飛行中に地上の人にぶつかり、相手が亡くなってしまったのは、日本で初のケースだろう。ぶつかったのが頭でなかったら...と悔まれる。

この事故は、8月1日、福島県猪苗代エリアのランディング場で起きた。当日はパラグライダーの大会が開かれており、飛行時間2.8時間のB級フライヤー、Aさんもエントリーしていた。天候は晴れ。2～3m/sec、南～南東の風。

ランディング場上空で高度処理していたAさんは、ブレイクゾーンの上空に進入。左旋回してランディングに入るうとしたところで、下で機体をたたんでいたBさんの頭部に衝突し、はね飛ばしてしまった。周囲の「あぶない!」という声に、Bさんが頭を上げた瞬間のことだった。前頭部にAさんのハーネスの硬い部分が当たったBさんは、前頭部頭蓋骨骨折・外傷性くも膜下出血で、37時間後に死亡した。

この事故は、いくつかのことが重なって、最も不幸な結果につながってしまったように思える。ランディングアプローチのコースが少しずれていれば、あと少しだけ高さがあったら、そして両者が注意を合っていたら、このような重大事故にならなかったらう。

Bさんはパイロット証を持ち、飛行時間は102時間。パラグライダーがどのように飛ぶものか、もちろんよく知っていた。それなのに、今回の事故が起きた。パラグライダーやハンググライダーを初めて目にするような人々が訪れるエリアでは、衝突事故を防ぐために、ありとあらゆる対策を講ずるべきだ。

では、どんなことをすべきか、具体的に考えてみよう。

フライトエリアであることを知らせる。一般の人に看板などで、ここはパラグライダーやハンググライダーが飛んでくる場所です、頭の上にも注意してくださいと、知らせる。たまたま通りかかって山菜を採っている人など、フライトエリアであることを知らない人もいる。

声をかける。

エリア内で一般の人を見かけたら、挨拶するのはもちろん、パラやハングがこちらへんを飛んでいきますから気を付けてくださいと、声をかける。(そこから会話がはじまって、スカイスポーツを理解し応援してもらうきっかけができるかもしれない。)

誘導する。

グライダーにぶつかる可能性のある場所に人が入っていたら、そこにいと危ないから見物するならこちらでと、誘導する。パラやハングの動きがわからない人は、機体が飛んでいく方向に走ったり、足がすくんで動けなくなったりする。ぶつからなくても、逃げようとしたはずみに転んでケガをすることも十分に考えられる。できればフライヤーが交代で誘導係になるなどして、誰かが飛んできてから「そこ、どいてー!」と叫ぶのではなく、予め余裕を持っ

て誘導したい。

飛びながら声をかける。

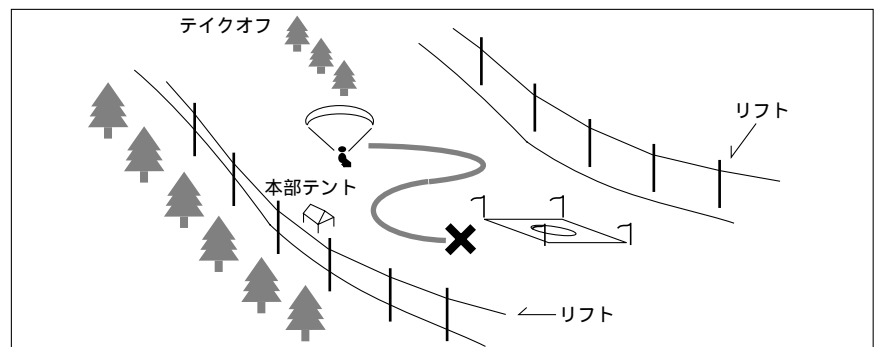
動力付きでなければ、パラやハングが頭上を飛んでいても、なかなか気付かない。高度があれば問題ないが、低高度で、地上の人がフライトコースの近くにいる時は、フライヤーは、そこを飛んでいきますと声をかけるべきだ。また、相手が動こうとしたら、右側によけてください、そのままここにいてくださいなどと誘導する。「あの人はどっちに走っていくつもりだろう」と気にするあまり、他への注意があるそかにならないよう、注意。

日頃からPRをする。

パラグライディング・ハンググライディングというのは、こんなスポーツですと、日頃から一般にPRする。これは、JHFや都道府県連盟がガッチリと取り組まねばならない課題だが、スクールで、クラブで、フライヤー個人でも、一般への働きかけをして、多くの人に理解してもらえば、安全確保にもつながっていくに違いない。

以上、わかりきったことばかりだが、各エリアで真剣に考えてほしい。また、一般の人だけでなく、フライヤーどうし声をかけることなどを徹底し、安全の確保を!

広報出版局 松田保子



### 落とし穴は思いがけないところにある

事故は、かなりの割合で「なんであんなところ?」とか「どうしてそんなことを?」と、首を傾げる状態で起きるようだ。特別に風が荒れていたわけではなく、グライダーは乗り慣れたもの、いつも飛んでいるエリア、それなのに何故?.....「魔がさした」とでもいうか、「落とし穴にはまった」というか。

落とし穴は、一見わからない。そこに穴があっても巧妙に隠されている。だから、はまってしまう人がいる。

この穴、避けるためには、いつも同じ目線ではなく、違う角度からも見る必要があるだろう。通い慣れた道をまっすぐ進むのではなく、ちょっとしゃがんでみる、脇に寄ってみる、耳を澄ましてみる。すると、落とし穴が見えてくる。そこにあるのがわかれば、それはもう落とし穴

ではない。はまって痛い思いをすることなく、安全なコースをとればいい。

実際は、そう簡単なことではない。ベテランパイロットでも気付かないほど上手にカムフラージュされた穴もあるだろうが、通い慣れた道も100%安全ではないことを頭に置いておけば、危険回避できる割合は、グッと増すに違いない。

\*

次の事故は、モーターパラグライダーの大会中に起きた。薬指を失ってしまったCさんも、落とし穴にはまった一人だろう。

6月21日、富山県黒部川河川敷。競技を開始して30分すぎた頃、0～1m/secの風。テイクオフしようと、前向きに立ち上げ後、一瞬キャノピーのテンションが緩み、バリバリという音とともに、パイロットが倒れた。

このパイロット、Cさんは、ライズアップ後パワーユニットのグリップを持ち直そうとして足を止めた。その時、キャノピーのテンションが緩み、右のブレイクコードのトグルがパワーユニットに吸いこまれ、ブレイクコードのラインが薬指と小指の間にかかった。トグルがパワーユニットに巻きこまれ、右手が引かれると同時に、ファンガードとの間で薬指を切損。一瞬のことだった。

この大会は、第1回。ほとんど無風だったが、Cさんは大会を盛り上げるため無理にテイクオフしようとして焦ったのではないかとされている。それにしても、指がなくなるなど、誰が考えただろう。事故は、まったく思いがけず襲いかかってくるものだ。モーター付きでもそうでなくても、安全確認をお忘れなく。

副会長 川添 喜郎

台風、集中豪雨、地震と災害続き。日本列島は暗いニュースばかりですが、JHF会員の皆さんから体験会や大会の明るい報告が寄せられています。こんな時勢だからこそ飛行の夢を実現できる方法を考える必要があります。フライヤー登録・技能証申請数が減少傾向にあります。逆に質的向上の時代にさしかかっていると云えます。

9月24日、JAAにフライヤー登録制度移管の要望書を正式に提出。角田航空業務室長、津田第二部長が対応され、早期実現に向けて前向きに努力して下さることを約されました。

我々JHFは社団法人となって社会的に認知されつつあり、社会のリズムに合わせた活動をせねばなりません。役所や他団体組織と交わりながら、自分たちの組織を改革していかねばなりません。一人よがりの考え方は通用しません。JHFの目的・フライヤーの要望を柱に進んでいくのは言うまでもありませんが、最近、正会員・普通会員からの意見や要望が少なくなっています。来年度の活動方針に基いた予算編成も始まりました。活発な議論を期待します。

常任理事 事務局長 朝日 和博

今年の収入も厳しい状態にあります。技能証申請料を主体とした財政ですが、このままでは収支のバランスが取れません。来年度に向けて財政の在り方を根本から考え直す必要があります。今、総合改革委員会で会費制度の検討が進んでいますが、小さなJHFとか地方分権とか、国政と同様に将来のことを視野に入れて、根本から考えていかなければならないと思っています。フライヤーの皆様はどう思いますか。

## 事務局からお願い

技能証発行までのステップ

申請教員(スクール等)がJHF宛に申請書等を発送。

JHF事務局が受領。

申請内容と申請料を確認し、不備をチェックする。

送付用封筒を準備(本人に直接送るか、スクールに一括して送るか、住所ラベルの指示のとおり。ラベルのないものはスクールに送る)。

不備があれば、その内容を連絡する。金額

常任理事 岩間 雅彦

ハングの競技委員会では、現在ルールブックの改正案をホームページに掲載しています。そして、改正案の内容に関するフライヤーからの質問や意見を電子メールで受け付け、これらを質疑応答という形でまとめたものもホームページに掲載しています。ルールや規定などの決定のプロセスを案の段階から公開して一般フライヤーの意見を聞くという試みは、今までもJHFレポートを通じて部分的に行われたことがあるかもしれませんが、その過程に要する時間を考えると、このような企画は実質的にはインターネットの利用により初めて可能になったと言えるでしょう。競技自体には興味がないという方も、JHFの各委員会の進むべき方向を模索する試みとして、一度ご覧になってみて下さい。HG競技委員会のホームページはJHFのホームページからリンクされています。

理事 小林 朋子

毎年3月頃開催されるCIVL総会の準備が既に始まっています。年内は日本から提出する議題をまとめるのに力を尽くすこととなります。

CIVLの最近の傾向として安全性を重視する議題が多いです。たとえばパラグライダーのプロトタイプを用いない国際大会や、ライン切れ問題の解決策が提案されています。

まずは日本での状況と様々な意見を把握するよう心がけようと思っています。

理事 星野 納

平成11年度普及活動推進案

普及活動の根幹である「全国体験講習会」

は、過去3年間に於いてかなりの実績を残し、また47都道府県連盟に対して実施したアンケート結果を参考にしますと、何らかの形で継続を図らなければならないと考え、前号でお知らせした通り前回の理事会へ推進案を提出しました。さらに他公益法人に対して、補助金の申請も出しますが、ダメだった場合も想定し、全額JHF支出になっても推進できるギリギリの予算です。

1. 参加者1名につき、一律500円の助成金を補助する。
2. 昨年同様、修了証を印刷し提供する。
3. JHFのしおり「モノクロ版を教材用に編集し直して参加者人数分提供する。
4. 前年度同様のスポーツ保険を準備する。

以上の内容は理事会審議を通過したわけではなく未だ流動的です。今後も補助金を受けられれば当然内容を変更し、普及事業推進室が直接理事会に推進案を提出しますが、予算が全額JHFの自前になると、他常設委員会同様、財務の予算編成に組み込まれ、事務局が理事会に実施案を提出することになります(補助金の申請先/日本小型自動車振興会・日本自動車振興会)

理事 松田 保子

広報出版局の仕事は、連盟活動にとって非常に重要です。会員はもちろん、社会に広く正しい情報を伝えること。それがどんなに大切なことか考え、担当理事として、また広報出版局メンバーとして「しっかりやらねば!」と自分に喝を入れている今日この頃。会員の皆さんからの喝も、きっちり受けたいと思いますので、どんどん飛ばしてください。待っています。

そろそろ稲刈りも終わり、XCパイロットには嬉しい季節。でも無理は禁物です!

額の場合は電話で、書類の場合は葉書で連絡。(不備が解消されない申請書類は保留。申請書をお返しすることもあります。)

適正な書類は発行作業の流れに入れる。申請級毎に分け、技能証番号を付ける。既得技能証番号を検索してから、入力。技能証カードを作成する。

送付先毎に分けて封入し、投函する。の不備連絡をした後、その返信がない場合、発行が非常に遅れることとなります。教員、関係者の皆さん、ぜひご協力くださ

い。また申請本人が発行について事務局に問い合わせる場合、の発送日を教員やスクールに確認してから、ご連絡ください。

技能証申請書に添付する写真  
技能証申請の際、顔写真1枚を申請書と一緒に送っていただいています。以前は2枚必要だったので、今も間違って2枚送付されることがあり、これまで不要な1枚は返送していましたが、しかし今後は、不要分写真はお返しせず処分させていただきますので、ご了承ください。

ハンググライディング	P証		バラグライディング	P証	
	発行数	金額		発行数	金額
	4,694	17,005		17,005	
	6,619	7,225		7,225	
	11,093	58		58	
	10,482	37,534		37,534	
	18	118		118	
	1,017	39,893		39,893	
		144		144	
		857		857	
		3,120		3,120	

JHF ホームページもご覧ください。 <http://jhf.skysports.or.jp/>

## JHF レポート 11月号 (No.142)

発行日 1998年10月20日  
発行 (社)日本ハンググライディング連盟  
〒105-0004 東京都港区新橋2-5-6 大村ビル4F  
TEL.03-3592-2651 FAX.03-3597-0245

編集 JHF 企画部広報出版局

印刷 日本印刷(株)

この印刷物は再生紙を使用しています。